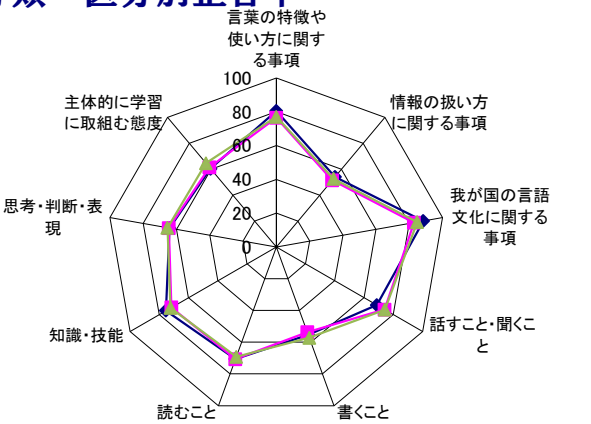


宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.5	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	54.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	88.3	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	68.8	74.1	74.2
	書くこと	55.4	53.7	57.2
	読むこと	70.6	70.7	69.2
観点	知識・技能	75.4	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	60.5	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	〇平均正答率は80.5%で、県より3.5ポイント上回っている。 〇「主語と述語について理解している。」では、県の正答率をそれぞれ、8.1ポイント上回っている。 〇漢字の書きでは全て県の正答率を上回っている。 ●漢字の読みでは、「都合」の読みの正答率は、70.1%で、県より6.2ポイント下回った。	・ローマ字表記や読みについては、国語科の授業だけでなく、総合的な学習の時間の調べ学習や日常生活において扱い、定着を図っていく。 ・「宮っ子ステップアップシート」や「漢字オリンピック」などを通して、繰り返し漢字の読み書きを練習させ、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	〇平均正答率は54.1%で、県より1.4ポイント上回っている。 〇「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。」「情報と情報の関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いている。」の2つの問題について、県の正答率を上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いている。」という記述式の問題については、無解答が19.5%となっている。 ●「国語辞典の使い方を理解している。」では、正答率が67.5%で、県より4ポイント下回った。	・示された文型に合わせて短文を書く活動などを取り入れ、記述式の解答に慣れるようにしていく。 ・国語科だけではなく、社会科や総合的な学習の時間などでも、収集した情報を短文でまとめる活動を取り入れる。 ・教室に国語辞典を常備し、調べたいときに調べられる環境を整えていくようにする。
我が国の言語文化に関する事項	〇平均正答率は88.3%で、県より3.6ポイント上回っている。 〇「漢字のへんやつくりを理解している。」では、県の正答率をそれぞれ3.6ポイント上回っている。 ●漢字の読みでは、「都合」の読みの正答率は、70.1%で、県より6.2ポイント下回った。	・新出漢字の学習では、漢字のへんやつくりについて触れ、文字の構成について意識付けしていく。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は68.8%で、県より5.4ポイント下回っている。 〇「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。」の正答率は、79.2%と、県よりも2.4ポイント上回っている。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えている。」の正答率は、63.6%と、県よりも11ポイント低い。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話している。」の記述式の設問は、正答率は、63.6%と県より7.6ポイント低い。	・国語科だけでなく学級活動や他教科に話し合い活動を意識的に取り入れていくことで、話し合いの仕方を身に付けていくようにする。 ・理由や立場を明確にして意見を述べるよう意識付けしていく。
書くこと	●平均正答率は55.4%で、県より1.8ポイント下回っている。 ●自分の考えや理由を明確にして書くことは、県や市と同程度であるが、指定された行数や段落構成に合わせて書くことに課題がある。 ●どの設問でも、無解答率が20.8%となっている。	・学校行事など様々な活動で、書く活動を多く取り入れる。生活文だけでなく、報告文、レポートなど多様な文章形式を読む機会を増やす。 ・文字数や段落構成など指定された書き方で、自分の思いや意見を文等にまとめる活動を充実していく。 ・手本を視写する活動を通して、書き方を身に付けさせる。
読むこと	〇平均正答率は70.6%で、県より1.4ポイント上回っている。 〇物語文の「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。」の設問では、県より5.7ポイント上回っている。 ●説明文の「叙述を基に段落の内容を捉えている。」の選択式の設問では、県より3.9ポイント上回っているが、正答率は50.6%と低い。	・説明文の叙述に基づいて正確に内容が捉えられるよう引き続き指導する。 ・学校図書館の「チャレンジブック」を活用し、いろいろな分野の本に触れさせていく。